

天草の災害復旧をみる

交通安全

●快適で安全な環境の造成



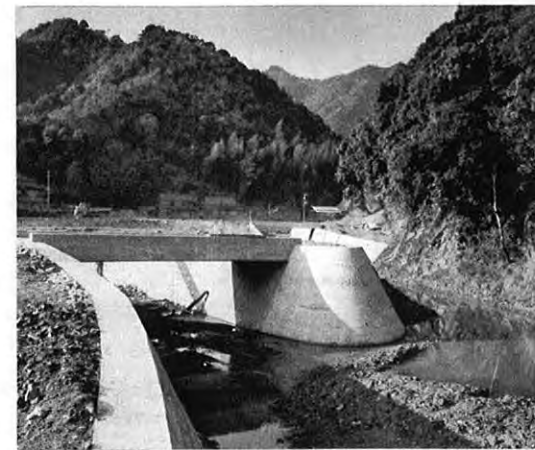
小さい時からの交通安全教育が最も大切です



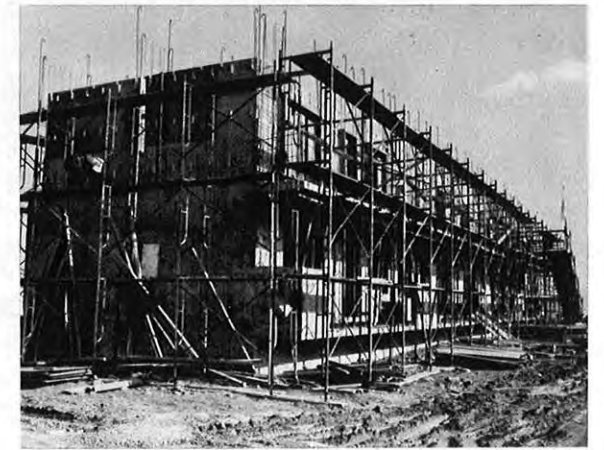
▲ほ場整備事業も進む



▲完成した上天草病院の雄姿



▲護岸堤防復旧もこのように



▲公営住宅の建設も着々と進む



▲排水路の整備も着々と進む



▲下貫川の護岸堤防も復旧

四十八年の交通事故は、発生件数、負傷者数ともかなりの減少をみたものの、死亡事故は激増し、二百六十五人の尊い生命が失われました。

本県の事故の特殊性としては、①交通三悪が依然としてあとをたたく、②横断中の事故など運転者、歩行者の交通道徳の欠如などがあげられます。

県では、市町村団体と相携して、事故抑止対策として、安全施設の整備促進、規制取締りの強化、安全教育の浸透を三本の柱として交通事故絶滅にあたります。

★ 子供と老人を守る交通安全施設緊急整備事業……………三千五百万円
本年度の重点事業として、①簡易歩道等による通学路の確保、②老人、身障者、乳母車などのため歩道の段差の改良、③通勤通学、買物のための自転車安全対策等きまのこまかい整備を行います。

★ 交通安全施設整備……………

十一億六千二百八十八万円

四十六年からはじめられた交通安全施設整備五ヶ年計画の年度事業として、歩道、防護柵、反射鏡など道路管理者が行うものと、信号機、標識標示など公安委員会が設置するものについては緊急度に応じて整備します。

★ 事故防止県民総ぐるみ運動の展開……………千四百二十八万円

飲酒、無免許、暴走など交通悪は、県民総参加運動を展開して、運転者のモラルを高めて絶滅をはからねばなりません。この推進母体として、市町村関係団体を網らした熊本県交通安全推進連盟があたり、組織職域ごとに指導者を育成拡大し、地についた対策を実施します。一方小・中学校、高等学校の安全教育を徹底し、又幼児の安全をはかるため「幼児交通安全クラブ」を結成し、安全機能の育成開発を含めた指導をします。このため地域婦人会、PTA、母の会、学校、幼稚園、保育所など幅広い協力を得て、交通安全タッチ運動(愛の一声、ふれあい、手助け)を展開して、県民総参加のもとに事故抑止にあたります。

★ 交通体系の円滑化……………

四千二百五十八万円

四十七年から建設中の交通安全会館が完成し、機能を発揮することになります。すなわち、交通管制の末端施設まで整備されると、交通情報の蒐集、指令が電算機で行われ、都市内交通の規制など、現在の交通情勢に対応する交通体系の円滑化をはかるための本格的対策にとりくむこととなります。

同時に免許事務の合理化、運転者教育の設備も充実し、交通事故防止に役立ちます。